

多摩川流域自治体による広域連携の取組 ～多摩地域の更なる発展に向けた共通基礎データの構築～



八王子市 日本遺産「霊気満山 高尾山」



府中市「ラグビーのまち府中」



調布市 深大寺 国宝指定「白鳳仏」



町田市「南町田グランベリーパーク」



日野市「ひの新選組まつり」



狛江市「巨大絵手紙」



多摩市「ハローキティストリート・しまじろう広場」



稲城市「MECHANICAL CITY INAGI」

令和3年2月

多摩川流域連携自治体

八王子市・府中市・調布市・町田市
日野市・狛江市・多摩市・稲城市

1 多摩川流域連携会議の取組

多摩川流域連携会議は、悠久の流れを湛える多摩川に沿って四季折々の自然を共有する多摩地域の自治体が、そのつながりを生かし、多摩川をテーマとした連携を企画・展開することを目的に平成25年から開催しています。

主な取組として、各市の共通課題研究のみならず、各市政策担当若手職員相互の人事交流・人材育成も目的として共通する行政課題や広域的な課題などについて、情報共有・意見交換を行っています。



●多摩川流域自治体によるこれまでの広域連携の主な取組

- ・多摩川流域自治体イベントラリーの開催
- ・多摩川流域郷土芸能フェスティバルの開催
- ・狛江市の古代カップいかだレースへの参加
- ・災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定
- ・インバウンド観光推進に関するパートナーシップ協定（「Guidoor(ガイドア)」） など

<多摩川流域連携会議趣旨>

多摩川流域自治体の各市とは、これまでも様々な場面で必要に応じて意見交換を実施してきました。悠久の流れを湛える多摩川に沿って四季折々の自然を共有する多摩川流域の自治体が、そのつながりを生かし、多摩川をテーマとした連携を企画・展開していきたいという趣旨を各市長に呼びかけましたところ、御賛同をいただき、このような機会を設けることができました。

この連携会議は、各市とも若手職員に出席していただき、貴重な資源である多摩川をテーマとした様々な連携策について、市の領域を越えて発想豊かな、遊び心もあるプロジェクトができればいいと期待しています。そして、この会議などを通じて、各市が固有の課題に向き合うだけでなく、広域的な視野で、課題を捉え、連携して、多摩の魅力向上に努めていただければと思っています。

平成25年5月10日 第1回多摩川流域連携会議 調布市長友市長挨拶要旨)

多摩の概要 (参考)

■多摩地域とは

- 明治26(1893)年に、西多摩・南多摩・北多摩の三郡が神奈川県から東京府に移管
- 多摩地域は、東京都のうち、東京23区(旧東京市)と島しょ部(伊豆諸島・小笠原諸島)を除いた市町村部(26市・3町・1村)で構成
- 昭和30年代から40年代の高度経済成長期に、鉄道の沿線に沿って爆発的な人口増加と急速な都市化が進み、多摩地域の人口は、昭和30年の100万人から、昭和50年には300万人へと急増
- 令和3年現在の多摩地域の人口は、東京都全体の人口の3割、約420万人を擁し、面積約1,159 km²は東京都(約2,193 km²)の約半分に相当
- 東京という地でありながら、多摩地域は豊かな自然と都市の利便性がバランスよく融合。西部では奥多摩に代表される豊かな自然環境、東部では教育・娯楽・文化・産業を揃えた都市環境に加え、東京都心部からのアクセスも良好



<多摩の魅力発信プロジェクトHP>

2 広域連携による多摩地域の更なる発展に向けた取組

■ 取組の目的

国の総人口は既に減少局面に入っており、東京都の総人口も2025年をピークに減少し、今後は本格的な人口減少時代を迎えます。人口減少の急速な進行は、生産力の低下や都市の活力に大きな影響を与え、多摩地域においても重要な課題の一つとなっています。

こうした課題に対応していくため、多摩川流域自治体の各市が取り組んでいる種々の施策をこれまで以上に連携・協調し、広域的な視点で取り組んでいく必要があります。多摩地域の自治体が連帯して広域的に協力して取り組むことで、それぞれの自治体がメリットを享受し、ひいては多摩地域全体の発展に寄与することが期待できます。

多摩川流域自治体において、これまで観光分野や防災分野など、広域連携による取組を検討・実践してきた中で一層の連携機運の高まりや、ウィズコロナにおける社会変化を踏まえ、多摩川流域自治体の8市が連携して各市ホームページにて、地域資源（特色・観光）の発信に取り組むとともに、各自治体の共通基礎情報として、人口・面積・財政のほか、産業関連情報や企業へのサポートなど、まちの活力を高める地域振興につながる情報発信を通じて、地域の活性化、ひいては多摩地域全体の連帯と発展につながるよう、自治体間連携を推進します。

■ 市域を越えた広域連携による共通基礎データの発信

これまで単独自治体で実施してきたまちの魅力発信について、広域的に連携して、各市が相互にまちの魅力のPRや、地域振興に関する情報発信を行うことで、様々な相乗効果を生み出すことが期待できます。

各市がそれぞれのホームページにおいて、共通基礎情報コンテンツ「多摩川流域自治体による広域連携の取組～多摩地域の更なる発展に向けて～」を公開し、多摩地域全体の連帯と発展に寄与する取組を進めます。

項目	八王子市	府中市	調布市	町田市	日野市	狛江市	多摩市	稲城市	市域全体
人口 (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2019年1月)	56万2460人	26万11人	23万5169人	42万8685人	18万5393人	8万2481人	14万8745人	9万0585人	199万3539人
面積	186.38km ²	29.43km ²	21.58km ²	71.55km ²	27.55km ²	6.39km ²	21.01km ²	17.97km ²	381.86km ²
労働力人口 (注)総務省統計局「国勢調査」	25万9121人	12万8317人	11万1962人	18万4842人	8万3763人	3万7688人	6万4761人	4万2237人	91万2691人
人口増減率(3年前比) (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」	0.06%	1.27%	3.87%	0.41%	.44%	3.09%	0.61%	3.57%	-
GDP (注)環境省「地域経済連関表」	2兆1297億円	1兆4631億円	8351億円	1兆2381億円	1兆2370億円	1990億円	6229億円	2519億円	7兆9771億円

■ その他の地域資源(市域を越えた広域連携による魅力発信)

(1) 八王子市

八王子市



■ 市の概要

八王子市は、東京都心から西へ約40キロメートル、新宿から電車で約40分の距離に位置しています。地形はおおむね盆地状で、北・西・南は海拔200メートルから800メートルほどの丘陵地帯に囲まれ、東は関東平野に続いています。

本市は、大正6年(1917年)の市制施行から、平成29年(2017年)で100年を迎えました。また、平成27年(2015年)4月に東京都初の中核市となり、人口約58万人の多摩地区のリーディングシティとして、21の大学を抱えた学園都市として、発展を続けています。

■ 交通

甲州街道(国道20号)、国道16号(東京環状)、国道411号(滝山街道、青梅街道)の交点となっており、八王子ジャンクションにより、中央自動車道と圏央道との交点にもなっています。

また、鉄道路線は合計7路線(JR中央本線、横浜線、相模線、八高線、京王線、京王高尾線、京王相模線、多摩都市モノレール)が乗り入れて、市内に21もの駅があり、昔から交通の要衝として栄えてきました。



■ 学園都市

～知の力と若いエネルギーがあふれるまち～

21の大学等を抱えた学園都市として、約7,500人の教員、約9万5千人の学生や約2,000人の留学生在籍・在学しており、知の力と若いエネルギーがあふれるまちとして発展を続けています。

■ 日本遺産

「靈氣満山 高尾山

～人々の祈りが紡ぐ

桑都(そうと)物語～」

令和2年(2020年)6月19日、八王子市が文化庁に申請したストーリー「靈氣満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都(そうと)物語～」が東京都初の「日本遺産」に認定されました。

誰もが知り世界が認める「高尾山」をはじめ、日本100名城に選ばれた国史跡「八王子城跡」など、29件の構成文化財を掲げて、本市の魅力を語った内容となっています。

この日本遺産認定を受けて、今後も国内外から多くの観光客が見込まれます。



■ 新型コロナウイルス感染症対応

八王子市では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けた市内事業者等を対象に、市独自の支援策を実施してまいりました。

○八王子市事業継続緊急支援金

厳しい経営環境にある市内事業者の安定した事業継続と感染防止対策について支援

○八王子市テナント家賃緊急支援金

テナント家賃の支払いが大きな負担となっている市内事業者を支援

○八王子市中小企業者等感染拡大防止対策支援補助金

事業所内における感染防止対策を強化し、継続した経済活動の推進を図るため、感染拡大防止のための環境整備に係る費用の一部を補助

○中小企業者パワーアップ補助金

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた産業の早期回復及び活性化に向け、新たな分野への事業展開を促進するため、中小企業が実施する新製品・新サービス等の開発及び販路開拓にかかる費用の一部を補助

● 企業立地支援制度

■ 八王子市内での企業立地・設備投資をサポート

八王子市では、事業施設の新設・拡張、設備の増設に対し、固定資産税・都市計画税・事業所税相当額を3年間各種奨励金として交付します。

■ 奨励金の種類

● 企業立地・雇用促進奨励金

(市外企業対象)

製造業、物流系産業、宿泊業、商業、事務所の施設を新たに設置(建築、購入、賃借)した市外事業者の方に、3年度分交付します。

● 市内企業立地継続奨励金

(市内企業対象)

① 製造業、物流系産業、宿泊業、商業、事務所の施設を新たに設置(建築、購入、賃借)または拡張した市内事業者の方に、3年度分交付します。(市内に本店を有し、継続10年以上操業する事業者の方は固定資産評価額当の要件は適用されません。)

② 市内に本店を有し、継続10年以上操業する市内小規模事業者等の方が事業施設を新たに設置(建築、購入、賃借)または拡張した場合に、3年度分交付します。

● 貸し施設設置奨励金

新たに施設を設置(建築、購入、賃借)し、製造業、物流系産業、宿泊業、商業、事務所の事業所の方に賃貸した場合、貸し施設設置者に、3年度分交付します。

● 産業系用地確保奨励金

製造業または物流系産業の事業者の方、貸し施設設置者に、1,000㎡以上の土地を譲渡した場合、1年度分交付します。(ただし、工業専用地域など住宅が建築できない地域を除く。)

● 開発・生産設備設置奨励金

製造業の事業者の方(中小企業者の方のみ)が新たに開発・生産設備(購入・リース)した場合に、3年度分交付します。(ただし、対象となる償却資産の固定資産評価額の合計額が3,000万円以上必要です。)

※上記奨励金については、業種の種別ごとに指定している「企業立地促進地域内」内で、事業施設の新設・拡張、設備の増設をしていただくことが要件になります。

※市内小規模事業者等については、市街地調整区域を除く市内全域が立地対象地域となります。

■ 加算金の種類

※加算金は奨励金の他に交付されます。

● 市内建設業者活用加算金

工場等を新設・拡張する際に市内の建設業社を活用した場合には、工事請負契約額の1%を加算金として交付します。

● 市内雇用促進加算金

新規に雇用した常用雇用者の6割以上が市内居住者の場合には、初年度のみ、一人あたり10万円を加算金として交付します。

(2) 府中市



■ 人口

本市の人口は、市制施行以降増加し続け、多摩地域で3番目の規模となっています。府中市の人口は、今後も緩やかな増加が続きますが、令和12年前後をピークに減少に転じると予想されています。本市では、このような人口減少社会へ対応するため、平成27年度に「府中市人口ビジョン」を策定し、将来展望として、平成52年時点で人口25.5万人及び合計特殊出生率1.50を確保することなどを目標と決めました。

■ 位置・特徴

府中市は、東京都のほぼ中央に位置し、東京都の副心である新宿から約22キロメートルに位置しています。豊かな自然に囲まれた良好な居住環境や、都市機能が集積しています。

本市の中心部である府中駅周辺には、約1,300年前に武蔵国の国府が置かれて首都として栄えるとともに、近世には交通及び物流の拠点とした宿場町としてにぎわいを生み出してきました。近年は、昭和30年代から40年代の多くの商店や住宅の立地によって人口が急増しました。

また、市内には電機メーカーや飲料メーカーなどの生産拠点を有していることや、金融や保険会社のバックオフィスとして開発された「府中インテリジェントパーク」が立地し、知識集約型業務として職住が近接する都市となっています。加えて、大規模集客施設として、日本中央競馬会東京場などが立地しています。

■ 交通

交通体系としては、鉄道網は京王電鉄京王線、京王電鉄競馬場線、JR南武線、JR武蔵野線、西武鉄道多摩川線で構成されており、市内には14の駅があります。

都市計画道路は令和2年4月1日現在、計画延長の82.5%が完成しており、多摩地域では比較的高い完成率となっています。

路線バスは、府中駅を中心として各路線が整備されています。



府中市の位置

■ 産業

市内には電機メーカーや飲料メーカーなどの生産拠点を有していることや、ネット通販大手の物流拠点が整備されています。また、金融や保険会社のバックオフィスとして開発された府中インテリジェントパークが立地し、知識集約型業務地として職住が近接する都市となっています。

さらに、本市の工業の特徴として、製造品出荷額は東京都の区市町村別で第1位となっています。(平成30年実績)

■ 観光

府中市は遠く大化の改新後、武蔵の国の国府(役所)が置かれ、名だたる武将たちも戦勝祈願に訪れた場所です。徳川家康がけやき並木を捕植し、馬場を献納し、江戸時代には甲州街道の宿場町としても栄えました。そのため府中市には歴史のある寺社旧跡などが多く残り、くらやみ祭りに代表される様々な伝統行事が継承されています。

また、府中市の魅力を広く発信するため、映画やドラマなどの撮影支援を行っており、多くの支援実績がございます。

● 企業へのサポート

府中市では、中小企業の資金繰りを支援する融資あっ旋制度や中小企業の従業員の定着と経営安定を図ることを目的とした中小企業退職金共済掛金の補助など市内企業の支援を行っています。

また、工業技術情報センターでは、専門の技術相談員による企業の技術相談や補助金事業の活用を促進し、専門性の高い企業のサポートを行っています。

さらに、むさし府中商工会議所や多摩信用金庫、日本政策金融公庫と連携し、市内で創業を目指す方へのサポートを行っています。

■ 特色ある地域資源(豊かなビジネス環境)

● 交通インフラの充実

道路

多摩地域の中でも幹線道路の整備率が高く、東西、南北における交通利便性が確保されています。

また、市内南部には中央自動車道の府中スマートインターチェンジがあり、遠方からの移動の高い利便性が確保されています。

公共交通網(鉄道・バス等)

鉄道駅やバス停留所からの徒歩圏域を抽出すると、概ね市全域がカバーされています。

● 人、モノが集まる場所の充実

中心市街地

本市の中心にある府中駅周辺においては、多くの商業施設、大國魂神社や馬場大門のケヤキ並木等の歴史・文化資源が集積し、市内外から多くの方が訪れる拠点となっています。また、「中心市街地活性化」の取組を進めており、さらなる賑わいの創出に取り組んでいます。

多摩メディカル・キャンパス周辺

「多摩メディカル・キャンパス」は、都立3病院が一か所に集まる、多摩地域の医療拠点となっており、広域的な医療サービスが図られています。

郷土の森周辺

郷土の森公園周辺では、博物館やスポーツ施設が集積し、市内外から多くの方が訪れています。

府中基地跡地留保地周辺

約14.9haの未利用国有地について、スポーツ施設や商業施設などを含む大規模な土地利用が図られる予定です。近隣に集積する文化施設等と連携し、新たな魅力を創出する取組が進められます。

● 製造業に係る援助の充実

本市では、工業技術情報センターを設置しており、中小企業の新製品開発・新技術等を支援するため専門の相談員による技術相談や補助金事業などを実施しています。当センターでは、専門の技術相談員による技術情報相談指導、科学技術文献情報や特許情報などの技術関連情報の検索・提供を行い、都立産業技術研究センターなどの公的技術支援機関や大学との産学官連携を推進しています。

また、むさし府中商工会議所と連携することで府中市工業技術展「ふちゅうテクノフェア」を開催し、ものづくり産業の活性化支援、中小企業等の優れた技術をPRし、異業種、教育、研究機関の交流を促進することで、技術の向上や販路開拓による取引機会の拡大、企業間連携の実現などを図っています。

● 大規模事業所等の集積

本市では、「東芝府中事業所」、「日本電気府中事業場」、「サントリー東京・武蔵野ブルワリー」をはじめとする日本を代表する大規模なものづくり産業が立地しており、本市の都市経済を支えています。



府中駅前



馬場大門けやき並木

(3) 調布市



調布市

■ 市の概要(人・企業にとって魅力となる都市ブランド)

調布市は、新宿副都心から約15km 圏内に位置する人口約23 万人の都市です。

市域の北側は三鷹市、小金井市、東側は世田谷区、南側は狛江市及び多摩川をはさみ稲城市・神奈川県川崎市、西側は府中市にそれぞれ接しています。

市域は東西約7km、南北約5.7km、面積は21.53k m²となっています。また、市中央部を東西に京王線が走り、これに沿うような形で市街地が連なっています。

■ 交通

市中央部に位置する調布駅は、新宿駅から特急を利用した場合、約15 分で到着でき、通勤、通学の利便性が高いです。また、1日の乗降客数は京王線において新宿駅に次ぐ2番目の1日当たり11 万人強であり、本市の中心駅となっています。

一方、道路交通では、中央自動車道及び国道20 号(甲州街道)が市中央部を東西に横断し、その交差部に調布インターチェンジがあります。

市内西部には調布飛行場があり、本州と伊豆諸島を結ぶ離島航空路線の拠点となっています。以上のとおり、本市は交通便利性に恵まれた立地特性を有しています。



■ 観光

映画のまち調布、深大寺、水木マンガの生まれた街 調布、花火など、調布市の魅力あふれる観光情報を提供しています。詳細は以下のリンクを御覧ください。

- ・調布市の観光
- ・調布市の歴史・文化財
- ・映画のまち
- ・水木マンガの生まれた街

■ 映画のまち

市内には、昭和8(1933)年に日本映画株式会社によって多摩川撮影所(現在の角川大映撮影所)が設立されて以来、数多く映画・映像関連の事業所が集積し、「映画のまち調布」として知られています。

昭和30 年代、日本映画の黄金期を支えた本市は「東洋のハリウッド」と呼ばれ、多くの映画スターを輩出しました。

平成29(2017)年には多摩地域最大級のシネマコンプレックスが開業し、さらなる盛り上がりを見せています。



■ 水木マンガの生まれた街

調布市名誉市民・水木しげるさんは、50年以上調布市にお住まいになり、「ゲゲゲの鬼太郎」や「河童の三平」、「テレビくん」など、数々の名作は調布で生まれました。

市は、各所にゲゲゲの鬼太郎のモニュメントやマンホールを設置するなど、「水木マンガの生まれた街 調布」として、街の魅力を発信する取組を推進しており、2018年には、一般社団法人アニメツーリズム協会が発表した「2018年版 日本のアニメ聖地88」の一つに選出され、盛り上がりを見せています。



● 企業へのサポート

■調布市では、創業や経営、事業資金に関する相談、テーマ別の相談会を開催しているほか、創業塾をはじめ、創業や経営に役立つセミナーも開催しています。また、創業支援施設スモールオフィスの貸し出しを行っています。詳細は、市ホームページ (<https://www.city.chofu.tokyo.jp>) から御確認ください。

問合せ先 産業振興センター 042-443-1213

・開業・創業支援



・融資・助成



・経営相談・企業診断



■その他の特色ある地域資源(豊かなビジネス環境)

東部地域の特色

市東部地域には世界的に著名な指揮者小澤征爾氏をはじめ多くの音楽家を輩出している「桐朋学園」があり学内やまちなかで様々なコンサートが行われています。

また、世界的に有名な建築家・安藤忠雄氏が設計した「調布市せんがわ劇場」「東京アートミュージアム」等が並んでいる、通称「安藤ストリート」があります。

さらに、明治末期に雑誌「白樺」を創刊した白樺派の文豪「武者小路実篤」が過ごした邸宅跡が現存し、現在は「実篤公園」「武者小路実篤記念館」となっています。このように、東部地域は芸術文化の薫るまちとなっています。



武者小路実篤記念館



実篤公園



東京アートミュージアム



せんがわ劇場

西部地域の特色

市西部地域には、サッカーJリーグの「FC東京」のホームスタジアムであり、収容規模5万人を誇る「味の素スタジアム」があり、サッカーの試合のほか、様々なアーティストによるコンサート等の各種イベントも実施され、大勢の来訪者で賑わっています。また、隣接する「武蔵の森総合スポーツプラザ」は東京2020大会の競技会場ともなるスポーツ施設です。

このように西部地域は文化・スポーツの拠点であり、特に2019年のラグビーワールドカップでは大きな賑わいを見せました。また、新選組局長の近藤勇の生家跡があります。



味の素スタジアム



近藤勇の生家跡

南部地域の特色

市南部には、東京都と神奈川県の間であり悠久の流れをたたえる「多摩川」が流れています。

「多摩川」は、水と緑の癒しスポットとして、週末には多くの市民の憩いの場となっているほか、例年夏には市内外から約35万人の来客で賑わう花火大会が開催され、夏の風物詩となっています。



多摩川緑地公園と花火大会



北部地域の特色

市北部には武蔵野の面影を残す深大寺自然広場等があり、近郊にありながら癒しの自然散策スポットとなっています。

奈良時代に建立された関東屈指の古刹「深大寺」では四季折々のイベントを開催しています。門前には「深大寺そば」の専門店が立ち並び、多くの来訪者で賑わっています。「深大寺」に隣接して、都内最大の広さを誇る「都立神代植物公園」があり、四季を通じて様々な緑や花を展示するほか、バラフェスタやジャズコンサート等のイベントも実施しています。周辺には「深大寺城跡」「深大寺温泉ゆかり」「深大寺水車館」「都立水生植物園」もあるほか、平成29年には深大寺の本尊である「銅造釈迦如来倚像」が国宝に指定され、毎年100万人程の来訪者が訪れる代表的な観光地となっています。



古刹「深大寺」



国宝「銅造釈迦如来倚像」